

介護相談員だより

2015年 10月 第22号
連絡先：介護相談員事務局
四日市市介護・高齢福祉課
電話 354-8170
FAX 354-8280



介護相談員とは・・・

施設などを訪問し、施設の利用者やその家族から、日ごろ抱えている疑問・職員に直接言いにくいことなどをお聞きするとともに、自ら気づいたこと等を施設職員に伝えることによって、問題解決に向けた「橋渡し」をしています。四日市市では、現在20名の相談員が、介護サービスの質の向上をめざして活動しています。

こんな相談がありました

相談員の気づき

デイサービスで、要支援1～要介護5の人が同じゲームをしていた時、耳の遠い人には伝わっておらず、全員レクの工夫を考えることを提案した。

利用者から、「大好きな俳句や趣味の本を置いてくれる図書コーナーを、各階に設置してほしい。1階にはあるが、1人では下りる事が出来ない」と相談を受け、職員に伝えた。

施設の返答・対応

目が見えにくい人、耳の遠い人にも対応できるように、職員が話す言葉を印刷したものを一人ひとりに配ってから全員に話すという工夫をしており、大変わかりやすかった。

次の訪問の時には、職員が本を集めて各階に図書コーナーが出来ていた。すばやい対応で、感心した。

見たこと 感じたこと

職員が、一人ひとりのお話を丁寧に聞いていた。「車いすに座りっぱなしにさせない」ケアを実践しており、活動の時間毎に、車いすから椅子、椅子から違う椅子への移乗を介助し、利用者のADLの向上に配慮していた。

おやつに牛乳・ヨーグルトが出ていたが、入浴の介助などで、職員が近くにおらず、テーブルに置いたまま飲む人、うまく飲めずこぼしそうな人、牛乳で遊んでしまう人がおり、飲食時に職員が居ないことの危険を感じた。

認知症利用者への対応と取り組み方

小山田グループホーム



認知症が進み、出来た事が出来なくなってきたとしても、職員が全部行うのではなく、一緒に行ったり環境を整えたりする事で、その人の残存機能を活かせるように取り組んでいます。

利用者がコーヒーを入れるのを職員がサポートしています。この後、職員はこの場を離れ、一人で入れる様子を見守っていました。

オーロラデイサービス

脳トレの一つである献立ゲームで、プリントに描かれた食材の中からカレーの材料を選ぶというものです。その際、「お肉は牛肉だった、いや、豚肉だった。緑色の食材には、ほうれん草、いや、春菊だった」と声を出し、調理していた頃を思い出しながら楽しそうに生き生きと進めていました。回想することで、認知症状の進行、悪化予防につなげています。



四郷デイサービス



職員は利用者の価値観を大切にしています。個々の利用者がしたいことをできるように一対一で対応するようにしています。

職員と包装紙でパイナップルを作りながら和やかに会話をしています。

くぬぎの木特別養護老人ホーム

職員は、利用者が施設に入居する前、自宅を訪問し、その人の生活してきた環境を知るようにしています。施設の部屋に持っていけるような家具や調度品を選び、利用者が落ち着く環境作りをこころがけています。



ご自宅の居間を再現

応接間にあった飾り棚



四日市青洲病院



回想法のひとつでミッケルアートに取り組んでいます。利用者は昭和30年代後半～40年代前半の時代の風景を描いた絵画を見ながら、話をします。頭の体操にもなり、精神状態も安定するそうです。

ミッケルアートとは？

高齢者の昔の懐かしい思い出を題材にした絵画であり、絵の中に「見つける」「思い出す」という工夫がされています。回想法として昔の懐かしい絵画を利用するコミュニケーションツールです。



新介護相談員紹介



井ノ口 敏子

相談者の皆様の声に耳を傾け、和顔愛語の精神で取り組みます。

まわりの方に助けていただきながら、頑張っていきたいと思います。

小川 まゆみ



小林 知子

日々、新しい出会いと発見に心ときめかせています。

利用者、家族、施設、行政の架け橋になれるよう努力します。

脇田 陽子



田中 幸雄

「自分が望む介護」を常に念頭に置きながら、活動したいと思います。

❀ 編集後記 ❀

今回の介護相談員だよりは、各事業所がいかに関者の残存能力を引き出し、個々の心地よい空間や時間を醸し出す工夫しているかを取り上げ、その一例を紹介させていただきました。私たち介護相談員も、介護サービスの質的向上に努めるべく、日々研鑽していきたいと心がけています。

❀ 広報委員 ❀

水谷秀子・吉田まゆみ・高宮友子・宮田常光・脇田陽子

